

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・常に見れる職員通用口へ理念を貼ってある。 ・1対1での入浴介護は、その日のその人のペースに合わせている。	理念は各ユニットの玄関に掲示されている。職員はお互い理念を理解し共有しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・GHの花火大会、秋祭りの獅子舞は近所へチラシを配り、参加を呼び掛けている。 ・地区の清掃日に参加。	入居者が近所で散髪したり、運営推進会議の委員が隣近所にホームの行事の声かけをしていただき徐々に交流の幅が広がっている。長野市安茂里支所で行われる作品展やバザーにも出品しており、ホーム主催の花火大会などにも地区住民の方が大勢参加している。中学生の職場体験の受け入れは、継続して今年も予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・高校生のボランティアの受け入れ。 ・裾花中学校の実習の受け入れ。 ・施設内の見学はいつでもOK。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・火災だけでなく、水害での防災訓練が必要と助言をいただき、実施予定。	2ヶ月に1回、奇数月の第3金曜日に開催し、家族代表、近所の住民、地区役員、市職員、地域包括支援センター職員で構成され、入居者の様子やサービスの取り組み状況を報告し、頂いた意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・毎回会議の前に議題を持ち、出席お願いに行っている。 ・市の講座等を通じ、資源を大いに活用して下さいと助言をもらっている。	管理者が担当者と連絡を取りながら市との協力関係を築くよう取り組んでいる。市よりのあんしん相談員(介護相談員)の任期2年が過ぎ、交替の相談員がまだ派遣されていない。新しい相談員の派遣を市にお願いしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・点滴施行時、居室でつきそう。 ・徘徊は同行。 ・入口の施錠はさせてもらっている(前は線路)	職員は身体拘束について学習し、主旨を十分理解し、拘束のないケアを行っている。車イスの方が食事をするときには食堂の椅子に移動していただき楽しんでいただいている。ホーム近くには交通量の多い道路や線路があるため危険が予測されることから家族の了承を得て玄関の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・言葉による虐待にならないよう、常に心掛けている。 ・否定はしない言葉使いを心掛けている。		

グループホームコスモスあもり・あさま棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・希望があれば行なっているも、今年はまだなし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居はPMのゆったりとした時間帯としている。 ・前もって書類を持って行ってもらい、理解をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時、家族会等でお聞きしたり、生活記録を通してお聞きしている。 ・職員会議を連絡ノートに記入し全員に読んでもらっている。	開設から3年目に入り意見が出出できる方が約半数ほどとなっているが、出来ない方には表情や動きで読み取っている。家族には毎月「ホームの生活記録」と担当職員の添え書きを届けており、2ヶ月毎にホームの新聞も送られている。年2回家族会があり、意見を聞き運営に反映させている。ホームへの信頼度が高まりつつあり出席率も高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議で検討、それ以上のものは上へあげている。	管理者は常時職員の意見に耳を傾けている。毎月1回定例職員会議があり、提案や意見が双方向で出されている。酸素使用法のトレーニングを受けた職員が講師となって勉強会を開くなど研修報告等は職員間で共有し、実践に活かしている。今回の自己評価も職員が各々参加し、意見が集約されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・家庭の都合第一優先で勤務表を作っている。 ・検診年2回、リフレッシュ休暇有り。 ・外部より良い評価をもらったり、ご家族様より良い事を言われた時は、必ずほめ言葉を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・本部の研修に参加。 ・勉強会の講師は職員を当てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・善光寺ネットへの参加。 ・近所の施設との交流会に若い職員を出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に必ず遠方でも逢いに行き、関係作りしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面会時、生活記録を利用。 ・入居前に荷物を数回に分けての持ち込みや、面接にて話すチャンスを作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家人の他にケアマネージャーを通し、デイ利用やショート利用時の情報をもらったり、事前面接に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・いつでも声をかけてもらえるよう職員より話しかけている。1つのテーブル内では、一人一人平等に声掛け。 ・煮物、縫物、味付け…等教えてもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・遠方の家族には生活記録に、体重、血圧、つぶやき等記入を多くしたり、TELを回数多く入れるよう、面会待たずに行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・近所の友人、小学校の同級生、同じサークルだった人の面会は家族と同じ対応で居室へ案内。また来てくださいと声掛け。 ・美容室へ、近所散歩で知人に逢う。	最高齢の入居者の友人が訪れお互いにおしゃべりを楽しんでいる。入居者には地元出身の方が多いので住んでいた近所の知人や元の職場の友人なども多く、その関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レク、作業等全員でなく、数人単位で。 ・塗り絵、縫物、布切り…得意な所へ参加。		

グループホームコスモスあもり・あさま棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院先への面会。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・カンファレンスで理解。 ・入所前に情報をもらっている。 ・好きなだけテレビを見る(12/31の11時まで、プロ野球)	会話や表情、行動から思いを汲み取り、本人本位の支援に心がけている。家に帰りたくなると胸の痛みを訴えたり、日によって気持ちが変わったりするが、耳を傾け、どんな暮らしを提供出来るか職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前に情報をもらっている。 ・センター方式で行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間の流れに沿って書き、話し言葉で書いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・プランにサインをもらう時、聞いている。 ・変化があった時はカンファレンス、必要時はプラン変更。	1~2名の入居者の担当制を取り入れており、入居者の会話、表情、行動、職員間の情報から計画作成者が相談しながら介護計画書を作成している。見直しの期間を3ヶ月と定めており、家族には内容を伝え承諾を得ている。状態に変化が見られる時には現状に即した介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・1日の中でも他の人の感じたこと、話した内容も書くようにしている。 ・ファイルは常に事務所へ置き、ワゴンへ置く。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・当日の外出、外泊OK。 ・身元引受人以外で頼っている関係の人には身元引受人へ連絡を取り、外出してもらっている。 ・PT、クリニックNSの補助、助言をもらっている。		

グループホームコスモスあもり・あさま棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・商店、美容院、床屋さんの協力。 ・推進会議出席の方の増員、8～11名に。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・週1回の往診時の全員診察。 ・外部への受診ではDrの紹介状とホームの情報提供。	入居の際、家族の希望によりクリニックに変更している。法人の医師による往診が毎週あり、薬局とも連携しているので家族は安心である。歯科に関しても協力医がいる。他の専門科目に通院する場合には家族が付き添いを行っているが、都合がつかない場合には職員が代行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・連絡は細目に出来ている。 ・必要時クリニックへの同行、外部医療機関へ同行と紹介状。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・面会はこまめに(忘れられないように) ・HPの職員への聞き取りで必要なら食事介助も行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時書面では話している。 ・変化あった都度、なるべく細かに現状を伝えている。 ・本部とも連絡を取り合っている。	「入居者の状態が重度化した場合における対応についての同意書」があり、「重度化した場合における対応に係る指針」の説明がされ、本人や家族は内容を理解している。高齢の入居者の中にはホームでの看取りを望んでいる方がいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員会議で機器の扱い方、対応の仕方、職員講師で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回防災訓練、今年は火災ではなく水害で。 ・床屋さんには有事の時、避難場所としてOKをもらっている。 ・有事はその時、その場面に応じた現場の判断と言われているも不安。	年2回消防署の指導のもと、入居者も参加し、通報訓練、避難訓練などを行っている。そのうち1回は夜間想定で行っている。スプリンクラー、火災報知器も完備されている。近所の方から有事の際の店舗の使用申し出があり、身近な所での理解者がおり心強く感じている。	運営推進会議時に東日本大震災の教訓から委員より地震・水害を想定した訓練の提案が行われ、今年度は地震・水害想定訓練も行う計画がある。より多くの防災訓練を体験することで非常時に備えていただくことを望みたい。

グループホームコスモスあもり・あさま棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・もし自分だったら、親だったら…と頭に置いて対応中。	ホームに入ると温かな雰囲気、1軒の大家族のように会話が弾んでいる。そんな中で職員は入居者一人ひとりが築いてきた人生に敬意を払い支援している。職員は個人情報の保護や守秘義務について十分理解し実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・危険でない事、見極めた上での本人決定。 ・レクの内容、テレビ番組、着るものの決定。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・特におやつ時間は希望を取り入れている。(場所も) ・ヒントを出し、決めてもらっている。(その日のレクも)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・今着るものはこれでよいのか、風呂のあとはこれでよいのかを聞いている。 ・長い髪の方は髪型も聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・出来る事でOKもらったことはしてもらっている。 ・味見だけの人もいる。 ・希望された献立作り。 ・誕生日メニューは希望の食事を作っている。	食事作りはそれぞれ自分の出来る範囲で参加し、職員と一緒に会話しながら食事を楽しんでいる。好みを聞いて献立に反映したり、行事や誕生日などには特別メニューを入れ変化をつけている。ホームで献立を考え、食材は法人の利用する業者から納入して貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・好きな飲み物。 ・食事量が少ない人には補助食。 ・体調不良時は病人食としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・週1回のポリデント。 ・歯ブラシ、コップのを日光消毒。 ・ほとんどの人の仕上げは職員で。		

グループホームコスモスあもり・あさま棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来る方には新聞紙での処理してもらうよう、トイレに用意。 ・リハパン、パットの検討。 	<p>トイレでの排泄を基本としており、排泄チェック表に沿って声がけしトイレに誘導するなど個々に合わせた支援を行っている。自立の方、リハビリパンツやパットの方、布パンツなどを使用している方、おむつの使用を中止し様子を見ている方など多種多用である。夜間のみポータブルトイレを使っている方もいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩、体操、朝の牛乳飲用。 ・繊維質の多い食事を多くする献立作り。 ・排便チェック表の活用。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入る順番OKをもらってからとしている。 ・しょうぶ湯、ゆず湯等、季節の物を取り入れ。 ・音楽を流しながらの入浴。 	<p>普段会話が少ない方もお風呂ではおしゃべりをし、本音が出る。入浴介助の時には1対1で入居者と接することから、職員は本人の思いや希望を聞きだす大切な機会と捉えている。1週間に2回は最低入浴している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日中も居室で休みたい人には休んでもらう。 ・就寝時間はその日、その人の希望で。 ・午睡は希望の方のみ。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・拒否あれば時間をおき内服や粉にする、牛乳で溶く工夫。 ・処方箋をチャート前ページに書き、周知に努めている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア来所、外出時の挨拶得意な人。 ・テレビ見たい人、日光浴が好きな人、音楽を聞きたい人、嫌いな食べ物は他の物に代える…等。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・急な外出は無理だが、出たついでに希望を叶える。(買い物) ・全体での外出を多くしている、月1回は行く年間計画。 	<p>年間の外出計画が立てられている。行事外出の際には本部から運転手付きでマイクロバスを借り、花見や善光寺参り、繁華街の七夕見物などに掛けている。家族にも声がけをすることもあり、職員も含め数回の班に別けて出掛けるので色々な交流が生まれている。時折、家族と連れ立って外出する方もいる。</p>	

グループホームコスモスあもり・あさま棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・使用の機会は無し、本人は持っていない。 ・小遣いは預かっている。 ・善光寺参りはお賽銭をご自分でいれてもらった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望あれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・温湿度計を居室へ、廊下、食堂へ。 ・切り花飾り。 ・季節の物飾り(5月人形、お雛様、七夕飾り)	玄関は各ユニットにあり廊下で行き来が出来る。壁には入居者の写真があり南向きに建てられた食堂兼居間からはベランダ越しに野菜畑や花が見られ、空き地や新しい住宅が広がっている。共有スペースには段差がなく、手すりや風呂等が入居者の行動を考え造られている。空調管理が行き届き、時季に適した最適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合った人同士のその時の集まり、居室で数人で過ごす。そんな時はお茶の差し入れ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・好きな居室作りにしてもらっている。(思い出の作品、写真、家具) ・冬の濡れタオル使用とエコ加湿器使用。	自分で作った趣味の小物を飾ったり、傍に作りかけの縫い物の入った裁縫箱が置かれた居室、亡くなられた方の写真と位牌が安置されている仏壇が置かれた居室、ダンス・椅子・テレビなど使い慣れたものが持ち込まれた居室など、入居者の思い思いの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・入口にぬいぐるみ。 ・ベッドに当て物と布団しばりつける。 ・ドアに鈴をつける。 ・歩行器、シルバーカーの見直し。 ・布団に鈴。		